

★★周旋家日記 21★★

「キャリア形成について考える⑩
ーAI(人工知能)からBI(ベーシック・
インカム)へ」

乾明紀

1. 企業の将来性

大学 3 年生の春休みは、卒業後の進路を決めるための大切な時期である。2 月には実質企業説明会と化したインターンシップや業界研究会があり、3 月には正式な会社説明会が始まる。筆者も 3 年生ゼミを担当しているため、就職支援も重要な職務になっている。キャリア形成学科というところに籍を置いているため、伝統的な学部学科教員よりその責任は重いような気がする。

しかしながら、この時代の就職支援は非常に難しい。先日 5 名程の学生を指導したが、うち 4 名が企業選択に重視する基準は「将来性」だという。その基準は決して間違っていないのだが、技術革新のスピードがここまで早くなると企業の「将来性」を予測することは容易ではない。また、人工知能 (AI: Artificial Intelligence) の進化に伴うビジネスの変化は、労働者にとって悩ましい問題を突き付けてくる。

3 年ほど前「THE FUTURE OF EMPLOYMENT: HOW SUSCEPTIBLE ARE JOBS TO COMPUTERISATION?」¹という論文が話題となったが、その論文によれば、次のような仕事は、10~20 年後になくなるという。

¹ 原典はこちら。

http://www.oxfordmartin.ox.ac.uk/downloads/academic/The_Future_of_Employment.pdf

日本語での解説はこちらが詳しい。

<http://www.worksight.jp/issues/609.html>

<http://gendai.ismedia.jp/articles/-/40925>

銀行の融資担当者
保険の審査担当者
給与・福利厚生担当者
レジ係
レストランの案内係
ホテルの受付係
スポーツの審判
動物のブリーダー
電話オペレーター
カジノのディーラー
ネイリスト
仕立屋(手縫い)
時計修理工
彫刻師
苦情処理・調査担当者
メガネ、コンタクトレンズの技術者
義歯制作技術者
訪問販売員
露店商人
壁紙貼り職人 など

果たしてどうだろうか。実はすでに予想どおりの方向に世の中は動いていると言える。例えば「銀行の融資担当者」と同じことを、ジャパンネット銀行が AI で行くと昨年 10 月に発表した²。それによると、AI で中小企業の資金取引や業績を確認・分析することで、即日融資が可能になるという。

また、「レジ係」については、すでにイオンやイトーヨーカ堂でセルフレジを実現しているが、Amazon がレジを無人化したコンビニ“Amazon GO”を今年の早い段階にオープンする予定であることを発表した。どのような運営イメージかは、ぜひ次の

² 2016 年 10 月 25 日付 日本経済新聞電子版
<http://www.nikkei.com/article/DGXLZO08745070U6A021C1EE8000/>

URL で確認いただきたいが、複数のカメラによる

<https://www.amazon.com/b?ie=UTF8&node=16008589011>)

画像認識とスマホ等との連動によって商品確認と決済がおこなわれ、顧客はレジに並ぶことなく、ストレスフリーで商品を購入することができる。

この仕組みを導入する際の設備投資額を筆者は知らないが、経営者が人件費より安いと判断すれば、スーパーやファストファッションなどの小売店の多くが、こぞってこのシステムを導入することになるだろう。そうすれば、小売店の雇用環境は劇的に変わることになる。

この他、「義歯制作技術者」や「彫刻師」などの造形関連の職種も3D プリンターの影響を受けることは確実だ。また、「スポーツの審判員」は、すでにテニスのウインブルドン選手権で、複数のカメラと映像処理システムからなる「ホークアイシステム」が審判補助システムとして導入されている。スポーツの領域は、無人性に対する抵抗感もあるだろうが、有人性より確実性という価値観が勝れば、この領域の無人化も一気に進むだろう。

このように、様々な分野の仕事が、技術革新や AI 導入によってここまで変化しているのである。

2. AI から BI へ

法則性が明確な仕事や AI が学習できる程度の複雑性しかもたない仕事は、順次機械に置き換わっていく。

もちろん、仕事内容によっては、無人化の是非が議論されることもあるだろう。例えば、歴史ある相撲の行事がロボット審判だと、さすがに興ざめする。彫刻も人間が彫るからこそ生じる価値がある。機械に勝る価値を社会に提案し、社会がそれを認めれば、その仕事は有人として今後も存続して

いくだろう。優れたビジネスモデルや技術を開発する仕事が機械に置き換わることもまずない。

また、機械導入費用よりも人件費の方が安価であり続けることができれば、その仕事も有人として残っていくだろう。しかし、これらの仕事の大半の報酬は決して高くはない。

つまり、AI が一層進化した社会で報酬を得るといことは、優れた価値を提供できる人になるか、安い報酬でも厭わない人になるかしかない。かつて一億総中流と言われた時代があったが、日本の未来は、大きく二極化した社会になる可能性が高い。もし、そうであれば、AI の進化より早いスピードでベーシックインカム (BI) の導入を検討する必要があるのではないだろうか。

BI とは、資産や稼働能力の有無に関わらず、公共機関から金銭が定期的に個人に給付される制度である³。これが適切な給付水準で実現されれば、仕事の報酬が低くなっても生活を保障することができる。また、収入を心配することなくクリエイティブな取り組みに積極的に挑戦することもできる。さらに、収入の有無や報酬の多寡に関係なく“やりたい仕事”に従事することもできる。

幸いにも現在の日本は、技術革新のスピードより少子高齢化のスピードが速いため、今すぐ失業者が増えるということはない。だからこそこの猶予の期間に BI について真剣に議論すべきではないだろうか。学生の就職指導をしていてそのようなことを考えた。

³ 参考文献：山森亮 (2010)「ベーシック・インカム入門」光文社